

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 82人 国語B 82人

② 算数A 82人 算数B 82人

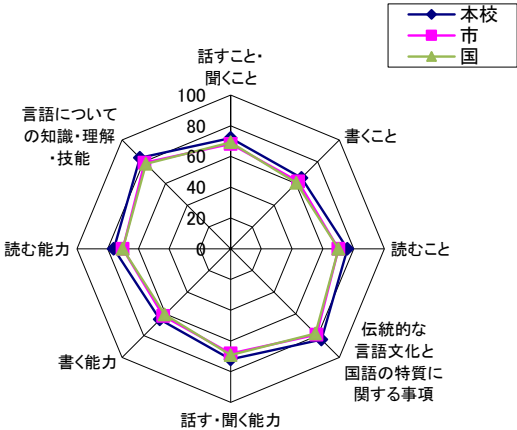
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

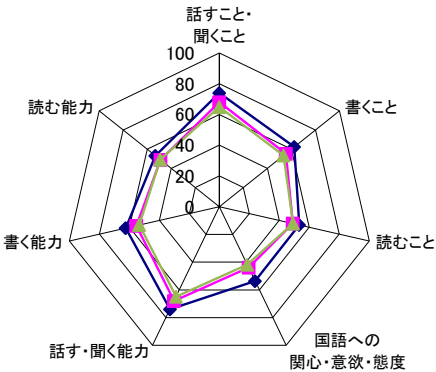
★本年度の国、市と本校の状況
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.0	68.2	69.2
	書くこと	65.2	62.0	60.6
	読むこと	76.0	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.6	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	72.0	68.2	69.2
	書く能力	65.2	62.0	60.6
	読む能力	76.0	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	83.6	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.0	68.0	64.9
	書くこと	62.4	55.3	53.4
	読むこと	53.3	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	53.7	43.9	41.7
	話す・聞く能力	74.0	68.0	64.9
	書く能力	62.4	55.3	53.4
	読む能力	53.3	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

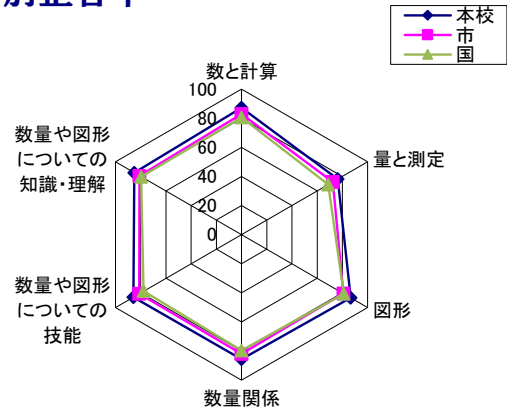
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語A、Bともに市・全国平均を上回っている。 ○国語に限らず学校課題「コミュニケーション能力の育成」を意識して、「話すこと・聞くこと」を授業で指導した成果であると考えられる。	・今後も、誰もが自信をもって発言できる発問や環境づくりを工夫する。国語に限らず、「聞くこと」の上手な峰小学校」を合言葉に、話を聞こうとする気持ちを育てていく。
書くこと	平均正答率は、国語A、Bともに市・全国平均を上回っている。 ○自分の考えなどをノートに書くことを指導してきた成果と思われる。 ●「書くこと」に抵抗をもつ児童もいる。個人差へどのように対応するかが課題である。	・国語科を中心に、「ノート指導」の徹底を図る。 ・国語の時間に限らず、自主学習や日記等、日常的な場面でも自分の思いや考えを書く機会を設ける。 ・文章を書くことが苦手の児童に対しては、「作文メモ」を活用し、自分の思いを整理させるようにする。
読むこと	平均正答率は、国語A、Bともに市・全国平均を上回っている。 ○内容理解のために音読を繰り返し行ったり、叙述に即して読むことを指導したりした成果と思われる。 ●叙述から離れて、思い込みで内容を解釈してしまう児童も見られる。	・授業で扱っている文章と同じ作者や同じテーマの作品を数多く紹介するなど、多くの作品に触れさせることで、登場人物の心情に沿って読み深められるようにする。 ・物語文では、登場人物に関する叙述を正確に捉えさせたり、関係性や心情、場面の变化を表す言葉に着目させたりすることで、主題を読み取れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、国語A、Bともに市・全国平均を上回っている。 ○百人一首・詩文の暗唱などを意図的に国語や会話科で扱ってきた成果と思われる。	・百人一首、詩文の暗唱等を継続し、文語調の響きやリズムに慣れ親しませる。 ・新出漢字を丁寧に指導するとともに、漢字ドリルやステッパップシートを活用した繰り返し練習で定着を図る。

宇都宮市立峰小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

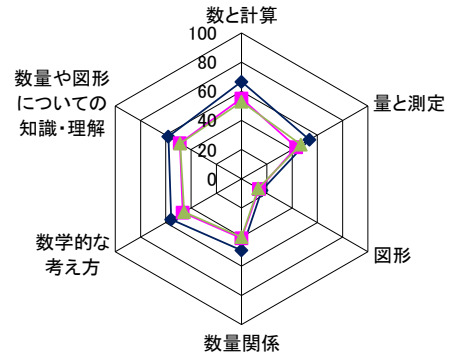
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	87.2	82.9	80.6
	量と測定	76.2	72.5	68.8
	図形	86.6	80.8	81.1
	数量関係	85.6	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.8	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	85.0	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.6	55.1	52.8
	量と測定	53.7	43.4	47.0
	図形	15.9	13.8	13.2
	数量関係	49.1	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	55.7	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	57.9	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数A、Bともに全国平均を上回っている。 ○乗法や除法などの基礎的な計算問題や、課題を読み取り式を立て正しく計算する問題において、正答率が高かった。既習の計算を練習する機会を設定してきた成果であると考えられる。	・課題を解くための式を示し、「なぜその式で解けるのか」という視点を普段の授業に取り入れる。 ・少人数グループでの話し合い活動などを場に応じて取り入れ、解き方を説明する機会を増やす。
量と測定	平均正答率は、算数A、Bともに全国平均を上回っている。 ○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断する問題において、正答率が高かった。	・考えを説明したり記述したりする活動を授業で取り入れる。その際、数直線や図を用いての説明を取り入れることで、理解を深めることにつなげる。
図形	平均正答率は、算数A、Bともに全国平均を上回っている。 ○図形の構成要素などの基礎は定着している。習熟度別学習で、個に応じた図形指導を継続してきた成果であると考えられる。	・具体物を用いるなどして、図形を多面的に見る力の育成を図る。ただ単に図形の内角の和や辺の長さを問うだけではなく、それらを基にして複合図形の見方を養い、考え方を言葉で説明する機会を充実させる。
数量関係	平均正答率は、算数A、Bともに全国平均を上回っている。 ○未知の数量を表す□を用いて、問題場面を正しく式に表すことができた。式を立てた根拠を説明する時間を設けた成果であると考えられる。	・今後も、根拠をノートに書いたり、発表したりする場面を設けていく。 ・児童同士の意見交流の中から、より正確で分かりやすい考えを意図的に取り上げていく。

宇都宮市立峰小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は100%であった。今後も、朝食を食べることの大切さや効果について、折に触れ、指導していきたい。

○「学校に行くのは楽しい」「学校で好きな授業がある」「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしている」と回答した児童の割合は9割を超えている。今後も児童が「勉強が好き」「勉強が楽しい」と思える授業を展開できるよう、各教員が教材研究に努め、教員同士で指導法を研究し合える環境を整えたい。

○「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は96.4%であった。「峰小のよい子のきまり」の徹底を図り、規範意識を醸成している成果であると考えられる。今後も、きまりの大切さを理解し、進んできまりを守ろうとする態度を育むことができるよう、全校体制で指導していきたい。

○「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがありますか」の設問に対して、95.3%を超える児童が「当てはまる」に回答した。「最後までやり遂げることの大切さ」を指導してきたことや「成功体験を多く積ませてきたこと」の成果と思われる。

○●家庭学習について、「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は98.8%で、平均を上回っている。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した児童の割合は76.2%であった。今後は、自主学习計画カードを用い、計画的に学習する習慣を育てていきたい。

宇都宮市立峰小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年間2回、家庭学習週間を設定し、家庭で学習した時間を記録させる。学年ごとに目標時間を設定し、家庭学習の習慣化を図る。	6年生の家庭学習平均時間は、平日が102.5分、休日が92.7分と目標時間の60分を大幅に上回った。今後は、学習時間の少ない児童に対し、一緒に家庭学習の計画を立てるなどして、支援していきたい。